



なきごえ



1997

11



大阪市
天王寺動物園協会



New Face

(撮影：高橋 雅之)

- 2 — New Face フサオネズミカンガルー (高橋 雅之)
- 3 — 動物と私 カツパの住む村 (池田 敏郎)
カバーウォッチング アマサギ (高橋 雅之)
- 4 — 希少動物の種の保存 (楠 比呂志)
- 6 — 日本サル紀行 (大野 尊信)
- 8 — グラフZOO 新カバ舎裏側ウォッチング
(大野 尊信)
- 10 — キーパーズアイ カバの引越し (中山 宏幸)
- 11 — ZOO DIARY (竹田 正人)

カバーウォッチング

アマサギ

コウノトリ目 サギ科

Egretta ibis

本来アフリカ、アジア南部に分布しますが、ヨーロッパ、アメリカにも分布を広げています。日本には初夏に飛来し、本州・九州で繁殖します。全身白色ですが、夏毛は頭頸部から背中にかけて黄色を帯びます。

(撮影：高橋 雅之)

||||| 動物と私 |||||

カツパの住む村

阪 神大震災の記憶も覚めやらぬ今年の春、鹿児島県の北薩地方を、震度6にも及ぶ大きな地震が襲ったことをおぼえている方も多いと思います。

この地震の震源は、この辺りでは最も高い山である紫尾山の直下でした。この山は神の住む山として、昔から人々に恐れられてきました。そのため、手付かずの原生林が広範囲に残っていて、サル、シカ、イノシシをはじめとし、たくさんの野生動物が生息しています。そしてここには、なんとカツパが住んでいるのです。実は私、この山の麓の村で生まれたのですが、小さい頃よりカツパの話聞いて育ちました。村の人は、きまって春の彼岸の頃になると、昨夜カツパが「ヒーヒョー」と鳴きながら山から川へ下ってきたとか、秋になると、そろそろカツパが山へ登る頃だ、などと話していました。

この地方では、カツパは森と水の妖精です。冬の間は山ですごし、春になると山を下りて川に住み、秋にはまた山に帰ると言われている

フサオネズミカンガルー

フクロネズミ目
カンガルー科

上野動物園から若いベアをいただきました。新居にもすぐ慣れて仲良く過ごしています。赤ちゃんの誕生が期待されます。



池田 敏郎 さん
(地方公務員)

ます。夏の間、子供達が安心して川遊びができるのも、冬に山仕事ができるのも、カツパが見守ってくれているからだと言われています。ところが最近この山は切り開かれ、山頂まで車道が通り、展望台まで建てられました。田によると、カツパの声が全く聞かれなくなってしまったとのこと。カツパはすみかを汚され、嫌気がさして他へ行ってしまったのかもしれない。私にはカツパがいなくなったことと、今回の地震が結び付いてしかたがありません。

ところで、このカツパの声ですが、真夜中に「ヒー」という高い声や「ヒョー」という低い声で鳴くのです。本当に不気味なのですが、実はトラツグミという鳥の鳴き声だということを知りました。トラツグミは、黄色と黒と白のまだらな大きなツグミで日本中に住んでいます。昔から、聞く人を恐ろしい気持ちにさせたりしく、又工、幽霊鳥、地獄鳥などと呼ばれています。もう一つカツパの声ではないかと疑われている生き物があります。やはりこれも鳥で、シギの仲間であるアオアシシギです。この鳥は渡り鳥で、春と秋の夜に「ヒョーヒョー」と鳴きながら渡るの、そう言われているのです。

カツパの声が鳥の鳴き声だと分かった今でも、鹿児島へ帰省した折には、夜中に家の外に出てカツパの声を聞こうと、聞き耳をたてています。

(いけだ としろう)



あなたは関心がありますか？ 希少動物の種の保存

楠

比呂志

神戸大学農学部附属農場
助手(農学博士)

希 少動物人工繁殖研究会(J-AREA、事務局:神戸大学農学部附属農場研究室)の第5回会議が、6月初めに兵庫県姫路市で開催されました。動物園の獣医師やキーパー、大学の研究者など約100名が全国から参加し、2日間にわたって活発な議論が行われました。

我々現代人は約1万年前に出現して以来、住居と資源、そして必要以上の豊かさや快適さを求めて、無秩序かつ無制限に自然を破壊してきました。そしてその結果、多くの生物が絶滅しました。このことは明白な事実として広く認められています。にもかかわらず、開発という名の下に自然破壊は依然として停まらず、今なお1日に1種と言われるような途方もないペースで、動植物を絶滅に追いやっています。

J-AREAは、絶滅の危機に立たされた希少動物の種の保存を目的として、平成5年に筆者らが中心となって結成した学際的な研究組織で、対象動物を選定し、機関や専門分野の枠を越えた研究グループを組織して、その動物の繁殖生理を解明するとともに、それに応じた人工繁殖技術の開発に取り組んでいます。また、各研究グループの研究状況を公開して、自由な意見交換を行うための会議を毎年1回開催しています。

今回の第5回会議では、シロテ



写真1. 雄ボルネオオランウータンからの精液採取風景(大阪市天王寺動物園にて)

ル、ボルネオオランウータン(写真1)、チンパンジー、チーター(写真2)、ゾウ(写真3)、シロオリックス(写真4)、インドホシガメ、ニッポンバラタナゴなどを始めとする40種以上

の動物について、精液性状や雌の発情周期、精子の凍結保存や人工授精の試みなどが報告されました。またこれらの研究状況の報告のほかに、京都大学霊長類研究所の清水慶子氏と埼玉県こども動物自然公園の日橋一昭氏の両氏を講師に迎えて、それぞれ「霊長類の繁殖とその内分泌学的背景」と「ソル類の人工増殖について」の2題の教育講演も行われました。

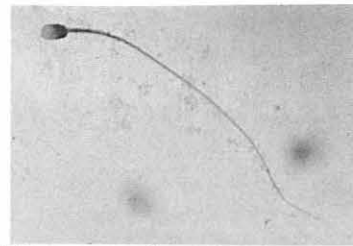


写真2. チーター精子のギムザ染色像



写真3. 性ホルモン分析のための雌アフリカゾウからの採血風景(姫路セントラルパークにて)



写真4. 雌シロオリックスへの人工授精風景(姫路市立動物園にて)

野生動物の種の保存は、本来の生息地で行うのが望ましいことは言をまちません。しかし、生息地が回復不可能にまで破壊または汚染されていたり、たとえ回復可能でもそれまでに動物が絶滅する可能性が高い場合、種の保存は生息地外での自然保護区や動物園などで緊急避難的に行うしか手はありません。動物園には、様々な野生動物に関する飼育技術や膨大な知識が蓄積されています。また動物園では、密猟や自然災害、天敵、病気などのプレッシャーから動物を守ることもできます。さらに動物園では、その教育活動の一環として一般の人々に楽しみながら実際の種の保存活動を見せて啓蒙することもできます。動物園がこれらのメリットを十分に発揮すれば、希少動物の種の保存に大いに貢献することが期待できます。

野生動物の場合、家畜やペットとは異なり飼育下であってもできるだけ人の手を加えないようにすることが基本となります。したがって、繁殖も自然の営みによってなされるべきでしょう。しかし、飼育下での野生動物の繁殖においては、飼育環境

不良や栄養障害、また遺伝的欠陥などを原因とした繁殖障害(不妊症)が生じ易いことが報告されています。これらの治療においては飼育環境の改善を図ることが第一であることは言うまでもなく、動物園では日夜その努力が続けられています。しかしながら、それでも治癒が困難な場合には、人間の不妊症治療と同じように人工授精や体外受精、胚移植のような人工繁殖技術の適用が必要となります。

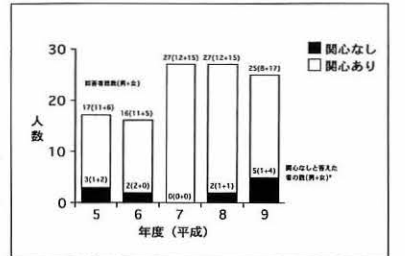
現在、種の保存を飼育下で行わざるを得ない動物は、哺乳類だけでも800種以上とされていますが、これら全ての動物について種が維持できるだけの個体数(旧約聖書の「ノアの方舟」のように一番ずつでは足りません)を収容することは、世界中の動物園を集めても物理的に不可能でしょう。また、例え1つの種と言えども、生息地の環境が回復して野生復帰が可能となるまで、動物園の限られた飼育スペース内で、遺伝的多様性を維持しながら累代繁殖し続けることも至難の技だと思われます。しかし、もし動物を生体ではなく配偶子(精子や卵子)や胚(受精卵)の形で小さな容器に入れ、復元可能な状態で保存できれば、飼育スペースの問題はかなり解消できます。また遺伝子をそのままの形で野生復帰時まで保持することも可能です。さらに飼育にかかる莫大な経費も相当軽減できます。

このように、人工繁殖技術や配偶子などの保存技術は種の保存を進めて行く上で大変有用な手段となります。しかし残念な事に、これらの技術は元々家畜や人間を対象として開発されたもので、繁殖生理や習性の異なる野生動物にはそのままでは適用が難しく、修正や新たな開発が必要でした。J-AREA結成の背景にはこのような事情がありました。

J-AREAの最終目標は、希少動物を配偶子などの状態で永久保存しておくことでも、人工繁殖技術を駆使して動物園内で増やすことでもありません。希少動物が本来の生息地で再繁栄し、二度と人間に脅かされることなく自由に暮らしていけるようにすることが最終目標です。そのためには、生息地の環境の回復と永続的な維持も平行して行ってゆかねばなりません。そしてそれには、J-AREAのメンバーのみならず、現代人一人一人が環境保全の重大性を十分に認識し、資源の無駄遣いや環境に有害な物質の生産や放出を止めるなどの努力をしてゆかねばなりません。地球生態系を完

全に回復させるには、相当な努力と年月を要することでしょう。しかし、これは地球を汚してきた現代人の責務なのです。ところが最近筆者は、環境保全に対して無関心な人が増えているように感じます。

右のグラフは、筆者の所属する附属農場が毎年夏期休暇中に集中



グラフ1. 野生動物の保護に対する神戸大学農学部応用動物学科3回生の関心の有無
*男女間で有意差なし
(1%水準、Fisher's exact probability test)

から9年までの5年間に受講した本学の応用動物学科の3回生を対象に行った野生動物の保護に対する関心の有無についてのアンケート調査の結果をまとめたものです。調査は「現在、野生動物の保護が強く叫ばれていますか、あなたはこれについて関心がありますか」との問いに対して、回答は無記名で「関心ある」と「関心ない」の2者選択で行いました。なお、回答者総数が平成7年度以降増えていますが、これは選択科目であった農場実習がこの年から必修科目となり受講者数が増えたからで、回答率はいずれの年度でも100%でした。

動物が好きで、あるいは動物に興味を持って大学に入学し、そこで動物に係わる様々な高度な専門教育を2年以上も受けてきたにも拘わらず、「関心がない」と回答した学生がいなかったのは平成7年度のみで、それ以外の年度では7.4%以上の学生が「関心がない」と答え、特に今年(平成9年度)に至っては5人に1人が無関心者でした。日本火災海上保険が、今年の2月に首都圏の卒業間近の男女大学生500人を対象に行った環境意識調査の結果でも、「環境問題に大変関心がある」と答えたのはわずか6.4%で、39.6%は無関心ともとれる「どちらともいえない」であったと聞いています。このような現象は、環境教育が受験科目でないという理由で軽視されてきた我が国の教育システムが生み出した弊害なのでしょうか。環境保全の推進に当たっては、爆発的な地球人口の増加が最大のネックになると考えられていますが、本当に恐ろしいのは無関心な人の増加だと思います。ところであなたは、関心がありますか？環境保全に、希少動物の種の保存に。

(くすのき ひろし)

日本サル紀行

おそらく、動物の飼育にたずさわる人の多くは時に自分の飼育方法が間違っていないか、与えている飼料はほんとうに適切だろうか等々、様々な疑問をもつことがあるはずです。健康で繁殖も順調である、そして長生きもしているという動物であれば十分に飼育技術が確立していると自信をもっていいのかわかりませんが、でも、本来野生動物が潜在能力を発揮する機会や、スペースもない封鎖された環境の中でその一生を終えなければならぬ動物達にもっとできることはないだろうか、あるいは本当に必要なものは何だろうかを考えずにはいられないものなのです。

最近、個々の動物の福祉や幸福度などということが、様々な場所でテーマとして取り上げられるようになりました。動物を飼う基本的なこととして、又、動物園のあり方として重要視されてきたことは歓迎すべきことです。これらに関わる飼育係のもつ日常的な疑問やなやみを解くヒントは、動物の野生下でのくらしぶりを知ることから分かる場合があります。きびしい自然環境の中で生き、闘い守り育てていかなければならない野生下の動物達は常にどこか緊張感をただよわせ、引き締まった体、輝きのある毛のツヤ、自然の中に同化した無駄のないしぐさ、いずれもが飼育下の動物達がどこかで失ってしまったものが、そこでは見ることができます。私はそのような機会をもつことができた時、あこがれと畏敬と同時に嫉妬を感じるがあります。それは実に心地よいものです。

動物園の人の中には自分の担当している動物の野生の姿を求めて世界各地に足をはこんでいる人がいます。遠くアフリカ大陸はもちろん、南極近くまでペンギンを訪ねたり、アジアゾウのふる里に毎年のように通う人など、そんな人達はけっして珍しくなくなってきました。

動物と同じ風土に自らの身をゆだねて感じ知り、理解できることは多くの書物を読むことよりも価値あることがきつとあるからです。

私はニホンザルの担当になった時、目にすることのできる多くの文献に目を通すと共に、日本中のニホンザルの生息地を訪ねてみようと思いを決しました。あたり前ですが幸いニホンザルは外国まででかける必要もなく観察することが可能です。関西にはいくつかの野猿公苑こうえんもあります。野生復帰の進まない箕面は私の家から車ですぐの所です。それらをいく度となく訪ねることは日常的に容易なことです。日本中のサルを見るためには北と南をまずおさえなければなりません。

「北限のサル」このロマンを感じさせる言葉に誘われるように青森県下北半島を訪ねたのは'92年の初夏の頃でした。脇野沢村在住の写真家松岡氏にお世話になり、生息地を案内してもらいました。生息地といっても遠い山の中ではありません。いわば村内です。以前、餌づけされた野猿公苑えんがわがありそれが猿害の拡大にともない全頭収容されたものが逃げだし、近くでくらし始めたものが今では4群ほどに分かれているということでした。その為か、人づけされているような状態で観察するのは好都合でした。その反面日常的に人家近くの田畑で食害を与えているわけです。私が最初に逢った若ザルは初めてみる人間を威嚇いかくしてきて、木の枝の上から私の毛を強くひっぱってくれました。少し痛い目をしましたが、近よることを許してくれました。この個体をみて感じたのは、ずいとお腹が張っていることです。よく見ると他の



脇野沢

動物と同じ風土に自らの身をゆだねて感じ知り、理解できることは多くの書物を読むことよりも価値あることがきつとあるからです。私はニホンザルの担当になった時、目にすることのできる多くの文献に目を通すと共に、日本中のニホンザルの生息地を訪ねてみようと思いを決しました。あたり前ですが幸いニホンザルは外国まででかける必要もなく観察することが可能です。関西にはいくつかの野猿公苑こうえんもあります。野生復帰の進まない箕面は私の家から車ですぐの所です。それらをいく度となく訪ねることは日常的に容易なことです。日本中のサルを見るためには北と南をまずおさえなければなりません。

個体も同様のように見えました。どうも畑のイモをお腹いっぱい食べたせいようです。食害を防ぐためにパトロールをしたり、ロケット花火で一応脅かしたりはしていますが、乾いた音が畑にひびくだけで、それを無視したような自信ありげな顔で畑の作物を食べるサル達の表情が印象に残っています。



北限のサル

都会の人が勝手に描く北限のサルのイメージと現実の間を、自分の体験として受けることができたことは、実に貴重なことだと思っています。同時にブナの葉をゆらす初夏の風を北限のサル達と同じ生き物同士としてうけていられた時間は至福の時でした。でもいつかきつと厳冬の北限のサル達に逢いにいかなければならないし、脇野沢よりさらに北に生息する地元研究者が世界中に一番幸福なサルと言わしめた大間にも足をはこばなければ本当の北限のサルに逢ったとは言えないでしょう。

屋久島はニホンザルの南限です。このニホンザルは亜種とされるのが一般的です。屋久島に広く分布していて特に西部林道沿いには連続して分布し、研究者により人づけされているため、観察が可能だということを教えてもらいました。北限のサルの次は屋久島のサルだと計画をたて翌年の5月下旬に海を渡りました。永田という海亀が上ることよく知られている地



西部林道

に宿をとり、徒歩で西部林道に足を運びました。屋久島は縄文杉に代表されるように杉の巨木が点在していることはよく知られています。でも西部林道沿いはおそらく世界最大規模の照葉樹林帯が残っていることはあまり注目されていません。関西では社寺林などでし

か見ることができなくなってしまった森林が、海岸部から森林限界近くまで島をつつむように新緑が輝いて、まるで島が燃えているように見えました。林道の一部は緑のトンネルとなり、独特のロケーションです。最後まで地道であった所で、サルの新人研究者はこの林道約20kmを歩いてサルを探すのが試金石だったと聞きます。現在も大型車は通過できないため一般の観光客はあまり訪ねてきません。私はサルが観られるという分けではありませんが、最も好きな所です。ゆっくり歩いていると林道にサルが現れました。亜種とされるだけあって外見はかなり本州でみられるサルとあきらかに違いがありました。特に大人オスの顔はとて同じニホンザルとは見えな程です。体に比して大きな顔はまるで鍾馗さんしゆきみたいな風貌です。黒い顔色は照葉樹の黒い森の中にとけこむようでした。体格は少し小さいようですが、体毛は長く雨除けの効果があると聞きます。四肢は短く子供の歩き回る姿はまるでゼンマイ仕掛けのオモチャのサルが動いているように見えたのはけっして大袈裟な表現ではありません。研究者の努力で人づけされているせいかこちらが静かにしていれば長く観察することができました。残念なことにここでも「餌をやらぬで」の注意看板を何枚もみました。車で通過する人達がサルの姿を見ると安易に食物を与えるのでしょうか。人が食物をくれる動物だとおぼえてしまったサルは、いとも簡単に物乞いサルになってしまいます。屋久島の他の所ではそんなサルも増えていました。せめてこの西部林道のサルは自然遺産にふさわしくあってほしいと願っています。帰り道、島の名産タンカン園の周囲に張られた電柵とサル除けの爆音は北の地で耳にしたものと同じでした。いずれにしても日本中のサルはなんらかの形で人間とのあつれきの中に生きているようです。

ヤクザル



(飼育課：大野尊信)

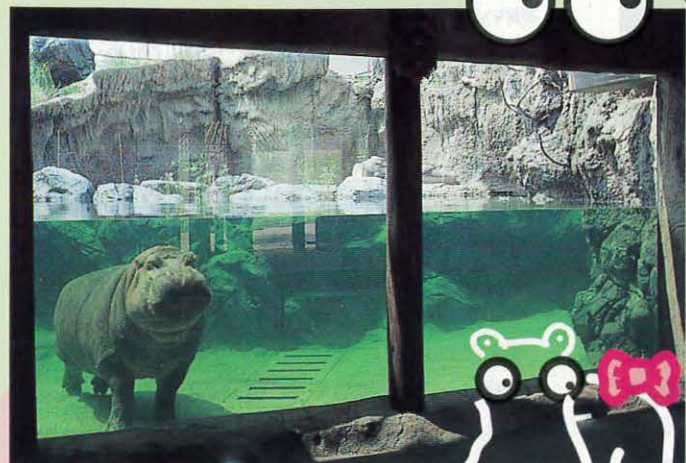
新カバ舎

完成記念講演会と

裏側ウォッチング

飼育課：大野尊信

グラフZOO



9月23日にオープンした新しいカバ舎では、水中のカバの様子が観察できます。

開催日は 9月 27日 土



まず、天王寺公園内の映像館で講演会があり、そのあと新カバ舎の裏側を見学しました。

作家であり、写真家でもある宮嶋康彦氏に「カバの幸福」という題名でスライドをまじえ講演していただきました。



当園のカバと同じ名前のテツオさんと、ナツコさん夫婦も講演会に申し込まれ主催者もびっくり!! 紹介され記念品が贈呈されました。



係員の説明を聞く参加者。近代的な設備におどろいていました。



3組に分かれて新カバ舎の地下の機械設備室や屋内プールなどを見学しました。



屋内プールを見学する参加者。



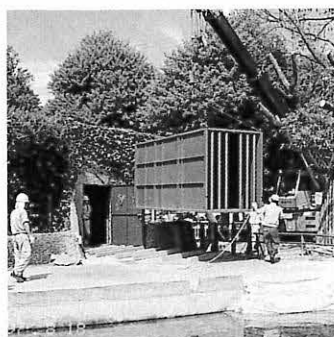
カバの餌(えさ)について係員が説明しました。



キーパーズ アイ

カバの引越し

泳ぐカバが見られる新しいカバ舎が完成しました。プールがガラス張りですカバの水中での活動が見られるのです。そこで、旧カバ舎から新カバ舎にテツオとナツコの2頭が引っ越しすることとなりました。この引越作戦は、カバを鉄のオリに入れ、クレーン車でつり上げてトラックで運ぶというもの。オリにならずに8月10日オリを入口に設置し、8月19日カバ移動作戦の開始となりました。カバがうまくオリに入ってくれるかどうか心配をしていたのですが、オリの扉を開けると少しとまどった様子を見せたものの、思ったよりもうまくオリに入ってくれました。この瞬間、私も思わず「ヤッター!!」とガッツポーズ。オリの中のテツオは



落ちており、これはいけるなど思っていました。オリにワイヤーをかけ、クレーンでつり上げ、少しオリが上った所で、テツオは大暴れ。オリが前後に大きくゆれました。旧カバ舎への捕獲移動オリの設置何とか、トラックの荷台に乗せることができたものの、鉄製の丈夫なオリにもかかわらず、前面の鉄パイプは曲り、上部の鉄板はボコボコになっている状態でした。このままだとカバが逃走することも考えられるため、獣医陣は麻酔銃を用意して待機するというものものしきでした。

とにかく急いで新カバ舎に運ばなければという事で、トラックは新居へ急ぐものの、スピードは出せないのろろ運転。トラックの上では、あいかわらず暴れ回るテツオ。テツオが動くたびにトラックは大きくゆれ、運転手はハンドルを取られ、顔色は真っ青。なんとか新カバ舎に到着したものの、クレーン車到着まで、待つこと20分。荷台の上ではあいかわらずドーンドドーン

と大きな音がして、トラックは前後に大きくゆれるのでした。やっとクレーン車が来て、寝室の入口までオリをつり上げ設置をしました。この場所が大変狭く、オリは置くにはギリギリの始末。まわりの壁にあてないようになんとか無事設置をしたものの、オリの鉄パイプを抜いて寝室に入れないといけないのですがまたこの時が大変。パイプを抜くなり突進し、オリの鉄板をぶちこわし、寝室のプールめがけて一目散。このときの「カバのばか力」にはド肝を抜かれました。

次はナツコの番だ。午後から捕獲、そして移動となりました。その前にこわされたオリの補修をしなければなりません。ナツコはテツオよりはおとなしく寝室前まで何事もなく運ぶことができましたが、ナツコもテツオ同様、前面のパイプを抜かない内に外に飛び出し背中をおもいきり打ったようです。ケガがないか心配でしたが、異常はないようでプールに飛び込んでいました。あれやこれやでやっとの思いで2頭のカバの移動作戦も無事終了。新居に入った2頭のカバは、新しい寝室内のプールで息をひそめて、じっとしていました。

作業終了後、クレーン車の作業員やトラックの運転手さん達は、「こんな仕事初めてですわ！緊張していつもの倍以上つかれました!!」とこぼしていました。

でも担当の私はまだまだ気は許せません。カバに本当に異常がないのか確認をしなければいけないからです。もうかなり時間がたっているのに、水面に上ってきません。どれ位の時間水中にいたのかわかりませんが、息をするために鼻を水面上に少し出したので、ほっと一息。しかし、この日はカバにとっても大変な出来事であり、明日から、餌を



食べてくれるかが気がかりでした。やはり3日間程は、プールから上がらず、餌も食べてくれませんでした。新カバ舎の透視プールで水中を歩くナツコ

いてきたとみえ、現在は、屋外のプールで気持ちよさそうに泳いだり、水中での散歩を楽しんだりしています。

ガラス張りのプールなので、頭をガラスにぶつけてゴーンと音がする事があります。

スローモーションビデオを見ているようなカバの水中散歩をぜひ見に来て下さい。

(飼育課：カバ担当・中山宏幸)

9月7日 7月3日に生まれたレッサーパンダの

赤ちゃんの性別判定と体重測定を行いました。性別はオスで、体重は1,100gでした。秋には一般公開できそうです。



9/8. ササゴイとアマサギを各1羽保護しました。

ヤギが1頭生まれました。

9/10. 新居に移動したカバの寝室慣らしが終了し、本日より屋外プール慣らしを始めました。

トカラヤギが1頭生まれました。

9月15日 敬老の日になんで、当園で最も長く飼育しているアジアゾウの「春子」と2番目に長く飼育している「ユリ子」にリンゴをプレゼントしました。また、国内のチンパンジーでは最長老の「シュジー」を普段の屋内展示場から出して、屋外展示場で仲間とともに展示しました。



先月末にシンガポールのジュロンバードパークから贈られてきたアマサギの検疫が終了したので、新カバ舎に放飼しました。

9/20. サル舎のシシオザルのメス「ナビ」が指を怪我したので治療を始めました。

9/22. 爬虫類生態館「アイファー」で展示中のヒョウモンガメの腎部の化膿病巣の切除手術を行いました。

9月23日 秋分の日

(お彼岸)にちなんで動物慰霊祭を行いました。子供たちや関係者のあと、動物代表として9月10日に生まれたトカラヤギの赤ちゃんと担当者が献花しました。

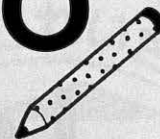


新カバ舎がオープンしました。このカ



今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY



バ舎はアフリカのマサイマラ動物保護区のカバの生息地を再現するとともに、水中のカバの様子が観察できる透視プールを備えた画期的なものです。

動物愛護週間にもなって園内で無料動物相談を始めました(9月26日まで)。

9/27. 新カバ舎オープン記念講演を、「カバの幸福」と題して、作家の宮嶋康彦さんにいただきました。

9/28. グラントシマウマのメス「ノリコ」が跛行(びっこをひくこと)したので治療を始めました。

8月から9月にかけて保護したヒヨドリ1羽とキジバト2羽が元気になったので自然復帰させました。

9月29日 6月15日

に生まれたアミメキリンの赤ちゃん「ピット」と父親



の「ナガヤ」を初めて同居させました。同居はトラブルもなく順調だったので、翌日から全5頭の同居展示を始めました。

■お知らせ■

●天王寺動物園

動物園のおじさんのお話
(11、12月各日も午後1:30～ 場所:レクチャールーム)

11月16日(日)「カバのお話」

12月21日(日)「ゾウのお話」

12月下旬～ しめなわ飾り

来年の干支(えと)の「寅(とら)」にちなんでトラ舎前にしめ縄をかざり新春を迎える準備をします。

●天王寺公園

季節の植物展と即売会

期間:12月6日(土)～12月31日(水)

場所:天王寺公園 天王寺側入口付近

★再度のお知らせ

9月23日より、遊泳中のカバの姿を観察できる新カバ舎がオープンしています。ぜひ、見に来てください。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？動物園での世話の仕方は？仲間とは？など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー

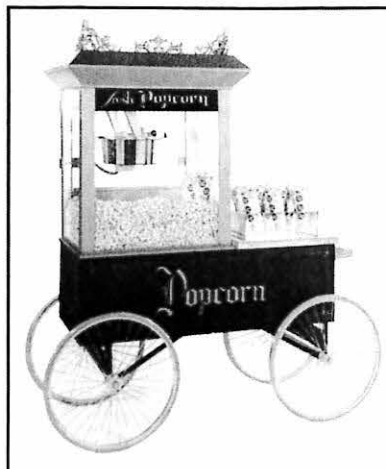
むしくらしとかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165

新・きれいな色 FUJICOLOR SUPER G ACE 400



カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031



ニホンオオカミの生態と歴史の集大成

狼 — その生態と歴史 —

平岩米吉[著] A5判 308頁 定価2,678円(税込)

ニホンオオカミは今もどこかで生きのびているのか——。狼と生活をともにした実体験を基盤に、数十年にわたり収集した正確な資料と生態学の眼をもって、ニホンオオカミの特徴や大きさ、性質などを分析。今も根強く残っている残存説を検証するとともに、絶滅へといたる歴史をも詳述する「ニホンオオカミの正史」。

築地書館 〒104 東京都中央区築地2-10-12 TEL 03-3542-3731 FAX 03-3541-5799 振替 00110-5-19057
●ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。(直接郵送時の送料は一律400円です。)

新作
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

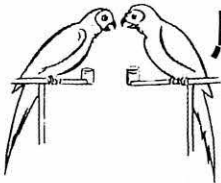


オールカラー
500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201



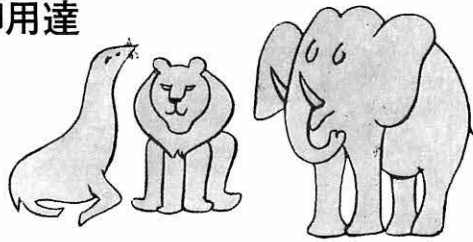
近畿 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. (コカ・コーラ指定会社)
Coca-ColaとCokeはThe Coca-Cola Companyの登録商標です



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

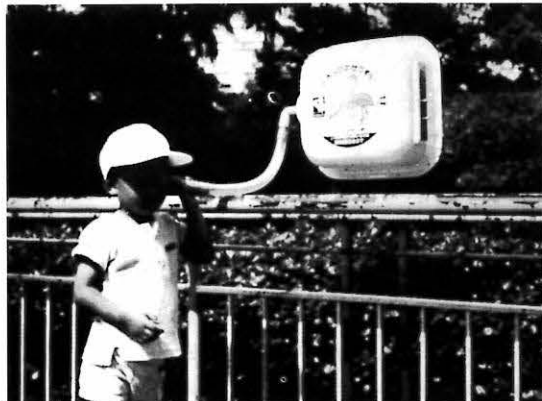


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 30円

動物園内での
お食事、
ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110



..... LOTTE

みんな大好き

エアラのマキ

〈チョコレート〉 〈ストロベリー〉

365日、毎日毎日骨太に。



牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに、
1本で1日分のカルシウム。



カルシウムを摂るなら牛乳や乳製品が理想的。それは、牛乳のカルシウムは、とても体に吸収されやすいからです。この牛乳のカルシウム吸収のよさはそのままに、カルシウムの量を600mg（成人1日あたりの所要量）までアップさせた、雪印毎日骨太。日本人に不足しがちなカルシウムを、効率よく補給するために、ぜひ毎日お召し上がりください。

雪印毎日骨太

300ml・100円／希望小売価格（税別）



一日
愉快地に
たのしめる

◎園内3ヶ所（南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下）に各種のりものがあります。



久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ

1997年11月10日発行（毎月10日発行）第33巻 第11号（通巻387号）

編集 / 大阪市天王寺区動植物公園事務所
発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 伊東重朗
印刷所 / 株式会社 松村善進堂

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74
電話 大阪 (06)771-0201
振替口座 00930-2-37823

編集委員 { 井坂 進/馬詰好文/増野悦敏/中川哲男/藤田四郎/長谷川敏昭/落合正彦/宮下 実/榎原安昭/森本委利/高橋雅之/市川久雄 }
長谷川真雄/中上正幸/佐藤紀子/萩原祐二/竹田正人/高見一利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/村上勇一/西村慶太/山元貞幸 }